

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

小学5年生から続けている音楽(サクソフォン)を、さらに専門的に学び、将来教員として活躍したいと考えていました。そのため、中学校教諭一種免許状(音楽)、高等学校教諭一種免許状(音楽)を取得できることと、就職率の高さに魅力を感じ、志望しました。

(2) 一般入試対策としての受験勉強、実技試験対策の進め方について。
※音楽学科入試課題については、『2021年度音楽学科入試課題』で必ずご確認ください。

〔1学期〕

吹奏楽部に所属していたため、放課後、休日は部活動が主でした。この頃は、課題曲、練習曲の練習はしていませんが、基礎練習を大切に、技術の安定、向上を目指し、日々練習に励みました。勉強は、学校での授業、課題と塾のみでした。

〔夏休み〕

夏休みは、全国大会出場へ向けての部活動へ力を注ぎました。全国大会への出場が決まった夏休み後半から受験勉強と本格的に始めました。まず、同志社女子大学2020年版大学入試シリーズを使い、過去問から出題傾向の分析をしました。学校の授業にあった楽典、コーレューブ・ゲンに加え、課題曲、練習曲2曲の練習を始め、夏休み後半でした。

〔2学期～入試直前〕

夏休みを明けても、部活動があるため、出題傾向の分析を踏まえ、通学時間(電車)や授業の間の10分休憩などの隙間時間を使い、暗記が必要な四字熟語やことわざ、漢字、楽語などを重点的に勉強しました。評論は、文章を読むことに慣れるためにセンター試験の過去問をひたすら解きました。センター試験の評論テーマ別出題一覧を見て、同志社女子大学の出題傾向にあった、哲学、文化、言語、社会を中心に解いていました。実技は、ある程度吹けるようになったら、録音して客観的に聴き、修正を重ねました。また、フラスマイトや先生方に聴いていただき、感想を聞いて、アドバイスももらいました。演奏している自分では気付くことができなかった、悩んでいたこともたくさん知ることができました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

部活動をしていると、勉強との両立が難しくなってきますが、私はどちらにも手を反すべくはかたので、その時、その場で自分に出来ることを最大限するように心がけていました。部活をする時には全力で仲間との時間を過ごし、勉強ができる時には目標をしっかりと持ち、しっかりと向き合うようにしていました。人それぞれだとは思いますが、私は好きば事(部活動)をしている時間があつたからこそ、受験勉強とも向き合えたと思っています。勉強は、家でするとし、スマートフォンやテレビなどの誘惑があるので、塾の自習室や図書館を多く利用していました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

頑張るための理由と目標をしっかりとっておくことをおすすめします。くじけそうになつた時、この理由と目標が前を向けるきっかけになると思います。そして、焦らずコツコツと努力を積み重ねてくたいてい。入試が近づいてきたとき、今まで使っていたノートや参考書、楽譜を見ると、入試当日、自分の努力を信じておけることができていくと思います。